



平成17年度第2回研修会報告

晩秋の風の冷たさが身に染む11月25日(金曜日)、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館を会場にお借りして本年度第2回研修会を開催しました。

日程・内容は下記のとおりで、32名の参加を得て有意義な会となりました。

研修会終了後は、アジア経済研究所図書館の施設見学をさせていただき、新設された重層書庫などを拝見しました。

講演会	午後2時00分～3時30分
・講師	根本 彰 氏 (東京大学大学院教育学研究科教授)
・テーマ	「LIPER共同研究から展望する今後の図書館情報学教育」
事例報告	午後3時45分～4時30分
・発表者	望月 春奈 氏 (千葉明德短期大学図書館)
・テーマ	「子どもの育ちを軸とする人と人とのネットワークづくりをめざして」

【 講師紹介 】

ね もと あきら
根本 彰 氏

(東京大学大学院教育学研究科教授)

1954年生まれ。

大学で教育学を学んだ後、大学院で図書館情報学の研究に従事。図書館情報学を経て、現在、東京大学大学院教育学研究科教授。

研究分野は、公共図書館論・図書館情報学論・比較図書館制度論・戦後図書館史・図書館情報学教育などで、その他教育文化制度や情報制度全般に関心をお持ちのこと。



根本 彰 教授 (東京大学大学院教育学研究科)

事例報告

「子どもの育ちを軸とする人と人とのネットワークづくりをめざして」

千葉明德短期大学図書館 望月 春奈



望月 氏(千葉明德短期大学図書館)

千葉明德短期大学図書館では、月に1回程度、主に土曜日に行っている「サタデーライブラリー〔=絵本コーナーの地域開放(閲覧のみ)と、学生主体のおはなし会を行うもの〕」、短大の子育て支援「親子教室」に参加する親子への貸出、卒業生のための休日開館日である「オープンライブラリー」などのサービスがあります。

このような取組みは、もともと、「保育創造学科」単科の短大で図書館資料の大半が幼児教育関係といった専門図書館的な良さを活かして何かできないことがないだろうか?と考えたことから始まりました。1997年から始まったこれらのサービスも、現在では、学生、教職員、卒業生、地域の親子の皆さんの参加に支えられて、大きな活動に成長しました。活動の方法や内容等についても、やっていく中で考え、参加者の意見や感想を聞きながらより良いものになるよう改善を加えてきました。

最初のうちは、学生の利用に影響が出るという理由で、「親子教室」に登録している親子の皆さんだけに貸出を行っていました。しかし、昨年度から「親子教室」が「ほっとステーション親子」という名称に変わり、誰でも自由に参加できるようになったことに合わせて、図書館でも、登録を行えば誰でも、貸出などのサービスが受けられるようにしました。その結果「サタデーライブラリー」の絵本コーナー開放と「親子教室」に登録の親子への貸出が、本格的な地域開放へと形を変えることになりました。

サタデーライブラリーで行ってきた学生主体のおはなし会も、学生や職員からの積極的な提案により、幼稚園・保育園への出張や公共図書館の行うおはなし会・イベント等への参加、選書ツアーの実施など、様々な形で、新しい活動の場が増え、おはなし会の実施にとどまらない学生ボランティアの活動に成長しました。

これらのサービスを利用するために図書館に集う、地域に住む子どもたちや保育者を目指す学生、保育者として働く卒業生、保育者を育てている教職員などによって、図書館は毎日にぎやかに活動しています。保育実習・就職について、幼稚園・保育園での生活について、子どもについて、絵本についてなど、お互いの立場や視点で話をし交流している様子が見られます。何かと悩みの多い子育て中の親にとっては、住む町に保育者養成校があり、専門的な情報を得、幼稚園・保育関係者や同じくらいの子どもの持つ親と交流できる場は貴重であると思いますし、そんなかわりを通して、学生には保育者の重要性を感じ、いろいろなことを学び取ってほしいと願っています。そして今後も、保育者養成校の小さい図書館だからできる、明德短期大学図書館らしい魅力ある様々な場をつくることによって、この子どもの育ちを軸とした共同的で多重的な人びとのネットワークを、もっと大きなものにできたら...と考えています。

第 2 回 研 修 会 に 参 加 し て

千葉市中央図書館非常勤嘱託職員 田村 正子

11月25日、第2回研修会が開催され、講演会、事例発表、会場であるアジア経済研究所図書館見学が行われました。

まず初め、東京大学大学院教育学研究科の根本彰教授による「LIPER共同研究から展望する今後の図書館情報学教育」のご講演がありました。日本の図書館員養成についての現状認識、図書館の現状報告の後、「今後司書が専門職であるという専門職性を高めるには、今まで以上に高度な専

専門的知識・技能を身につけることが必要である。そして、様々な情報に対応できる力をも兼ね備えて「情報専門職」として働くことが、図書館本来の機能を十分に発揮させることであり、より高度なサービスの提供にも繋がるものである。それには、現状を見直して、「情報専門職」養成のための図書館情報学教育を確立することが必要な時期にきている。」という内容でした。実際に現場で働いている私にとっては、大変興味深い内容で参考になりました。

次は、千葉明德短期大学図書館望月春奈氏による「子どもの育ちを軸としたネットワーク作りをめざして」をテーマの事例発表でした。自校の幼児教育という専門分野の特色を生かした活動（学生ボランティアによるおはなし会、幼稚園等に出張してのおはなし会等）報告がありました。また、所蔵している専門資料を最大限に利用してもらうために、卒業生、地域住民にも大学図書館を開放しているとのことを聞き、自校の図書館の特色、機能を最大限に生かそうと努力している様子がとてもよくわかりました。

閉会后、館内見学会に参加しました。アジア経済研究所図書館は開発途上国の経済、政治、社会を中心とする諸分野の学術的文献等、貴重な資料を所蔵している専門性の高い図書館なので、多くの専門資料をどのように整理、保存しているのかということにとっても興味がありました。

実際に見学してまず驚いたのが、多くのアジア諸言語の資料を所蔵している点でした。しかも、それらの資料は、ほとんど開架にあり、地域別・主題別・言語別による配架方法やラベルの表記方法を工夫して利用者にも分りやすく配架されていました。各言語には、それぞれ専門の担当者がいるとのことでした。

また、貴重な情報資料である新聞も、約300紙にもおよぶ所蔵数でした。マイクロ版に加工して保存しているとのこと作業室も見せていただきました。新聞は定期的に入手できるものばかりではなく、届いたものも必ずしも状態が良いとは限らないので、アイロンをかけて見やすい状態にしてからフィルムに納めている等、収集・整理・保存にも専門図書館ならではの工夫や苦労があることを知ることができました。

今回の研修会に参加して、改めて図書館のあり方、司書の役割を考えました。また、大学図書館、専門図書館の活動の様子的一端に触れ、独自の創造性をもって機能していることを知ることができ、大変充実した有意義な一日となりました。



研修会風景



研修会風景

加盟館だより



(1) 淑徳大学附属図書館千葉図書館

『 図書館から教務への異動；図書館での日々を振り返って 』

淑徳大学 光富 真理子

昨年10月からの「学事部教務」への異動で、30年間の図書館生活に終止符がうたれた。あっという間の30年間、またはとてつもなく長い30年間。結婚、出産、共働き、両親の介護、

父との死別。私の人生の大きな出来事が、みんな図書館との30年間と重なってくる。

その図書館との出会いは、県立図書館のアルバイトから始まった。ラベル書き、ブックポケット貼りのような単純作業が多かった。半年位して、偶然、がんセンターの図書室の方が、アルバイトを探しに来たので、急遽がんセンターの図書室で、英文タイプを見よう見まねで打ちながら、1年程勤める事になった。医学書が多く、利用者もお医者さんたちで、1日に入出入りする人は数人だった。

そのうち、またも、淑徳大学の図書館でアルバイトを探しているというので、昭和49年の秋に、こちらに移った。丸い建物の4階にあり、そのときはまだ閉架式だった。事務所は外側が全面窓ガラスで、それまでがんセンターの窓のない一室に居た私には、すごい開放感だった。おまけに、利用者は学生さんと教職員だ。数人の世界ではない。はりきらざるを得なかった。運良く欠員が出て、翌年4月に正規の職員に採用された。この建物の4階を、新館が建つ平成4年3月まで、17年間上り降りすることとなった。そこでは庶務、雑誌係、和洋書の整理係を務めた。当時は、まだカード目録を使用しており、和書は簡易式和文タイプライターで1字1字タイピングしていた時期もあった。6連式カードにコピーしてカードを複製していたが、カードコピー機が出現し、整理係には、救いの神となった。それでも、まだカードに赤線を引いたり、書名順配列をしてカードケースに繰込んだりと、現在の機械化された状況からは想像がつかないくらい面倒な作業があった。平成4年4月に、現在の独立した2階建ての新館に移動し、BDS導入や、パソコンでの貸出し・整理へと、機械化された図書館への変貌を遂げた。また、この30年の間に、単科大学だった淑徳大学も、今では、3学科、3研究科と発展を遂げ、その都度図書館も、特別の蔵書収集・整理に追われた。

思えば、機械化されてからも、発注、受入れ、整理を主に担当し、次々と終わりなく、追われるように仕事をしてきた。やめずに30年間続けられたのは、周りの人たちの協力と理解があったことと、それとほんの少しばかり本が好きだったことと、健康だったことのおかげだろう。教務の仕事は種々の締切りに追われ、いろんな事を同時平行にこなすことを要求される。その渦中で、初めて、図書館に漂うゆったりした流れに、あふれんばかりのなつかしさを感じている。送別に際して図書館の皆が書いてくれた個々の言葉が、今また「教務」で、はじめの一步を踏み出した未熟な私の、何よりの支えであり宝物だ。

お悔やみ

本協議会初代会長で、千葉経済大学短期大学部教授の竹内紀吉様(満65歳)が、平成17年8月23日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げますと共に、故人のご冥福をお祈りいたします。

お知らせ

千葉市生涯学習センターホームページのアドレスが変わりました

新アドレス ; <http://chiba-gakushu.jp/>

Network通信 No. 21

2006年2月14日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

Tel 043-287-4081 Fax 043-287-4074